

番号	委員名	議題番号	委員意見	事務局の考え方
1	藏田委員	議題1 【文化・スポーツ振興財団】	<p>令和2年度コロナ禍の影響がないところの回復を目指して取り組まれるというご説明があったかと思いますが、一方で、目標は令和3年度の数字を基にして何%とご説明をいただきました。</p> <p>令和2年度も一部コロナの影響もあったかと思いますが、その定常状態、フルに1年間この施設が運営できた場合、どれくらいの参加者がいて、来館者がいたのかという数字について、ぜひこの計画の中で、示していただきたいと思えます。令和3年度から何%増だと最初の説明と矛盾するような気がしますので、その点を補足いただければと思います。</p>	<p>(文化・スポーツ振興財団)</p> <p>例えば体育館の総数ですと、元年度は26万7,647人、2年度は14万4,852人、3年度は17万4,104人というような数字になっております。2年度はコロナの関係で閉鎖、開館していなかった時期がございますので、一応3年度を基準という形にしております。</p>
2	藏田委員	議題1 【文化・スポーツ振興財団】	<p>今の回答だとすると、令和元年度の数字でなくていいのですかって話です。令和2年度、令和3年度の数字から何%増という考え方でいいのかということ。フルで1年間営業できたのは令和元年度だとすると、令和元年度が定常状態と考えるのであれば、令和2年、令和3年を基準値として何%増という数字の説明の仕方は、論理的におかしいのかなと思うので、その点については、今お話いただいたとおり令和元年度も一部、あるいは2年度も一部閉鎖期間があったとすれば、適切な目標設定として、令和元年度の数字を参照するのが、おそらく普通に考えれば道理かなという気がしますので、その点をご検討いただいで、フルで営業した時の数字をぜひどこかにご記載いただくと、おそらく市民の方や関係の方々には理解しやすいかなと思います。</p>	
3	藏田委員	議題1 【文化・スポーツ振興財団】	<p>この文化施設への様々な経営改革を努力されているということで、様々なSNSの活用とかお話をいただきました。</p> <p>具体的にその財政的な経済的な数字の部分がしっかりと見えないと、具体的にそのような取り組みをされるということの宣言で終わってしまいますので、具体的に協賛事業であるとか、プロバスケットボールチームの試合の誘致でどれくらいというところの具体的な数字の積み上げの部分について、どこまで確認されているのかということと、またその目線、福祉の政策に協力する部分と、指定管理者として独自に収益を上げていただく部分のバランスについて、何らかの数字的な目標なり割合というものが検討されているようでしたらご説明いただきたいと思えます。</p>	<p>(文化生涯学習課)</p> <p>具体的な市の政策に対する部分と財団の自主事業の部分の利益を上げるところの目標値でございますが、残念ながら具体的な数字というものは出していない状況でございます。その辺のところはなるべく明確な形にできるように、これから調整させていただきたいと思えます。</p> <p>(スポーツ推進課)</p> <p>具体的な数値というものはございませんが、今年度に入ってから2市1町でホームタウンとして応援しようということになっておりますプロバスケットボールの湘南ユナイテッドBC、それから既存のプロスポーツであります、ベルマーレですね。あとはフットサルチームも、茅ヶ崎・寒川を中心としてやっていくというお話がございます。</p> <p>バスケットボールにつきましては、本年度からプロとしてB3リーグに加入したということでございますので、例えば屋内体育館でございましたら練習場所の確保、また、試合会場として使っていただくという形の中で、ただプロの方に使っていただくということではなくて、そこに例えば地域のお子さんなどそういった方も一緒に参加していただいて、何かスクールのなものもやっていただくというような話は、チームの方もしているところでございます。</p> <p>市といたしましてもスポーツにつきましては、ただやるスポーツ、啓発普及ということではなくて、こういった機会でございますので、プロスポーツにも入っていただいて、実際に見るスポーツとか、そういった部分についてもこれからは市として積極的に取り組んで参りたいということは考えてございます。</p>

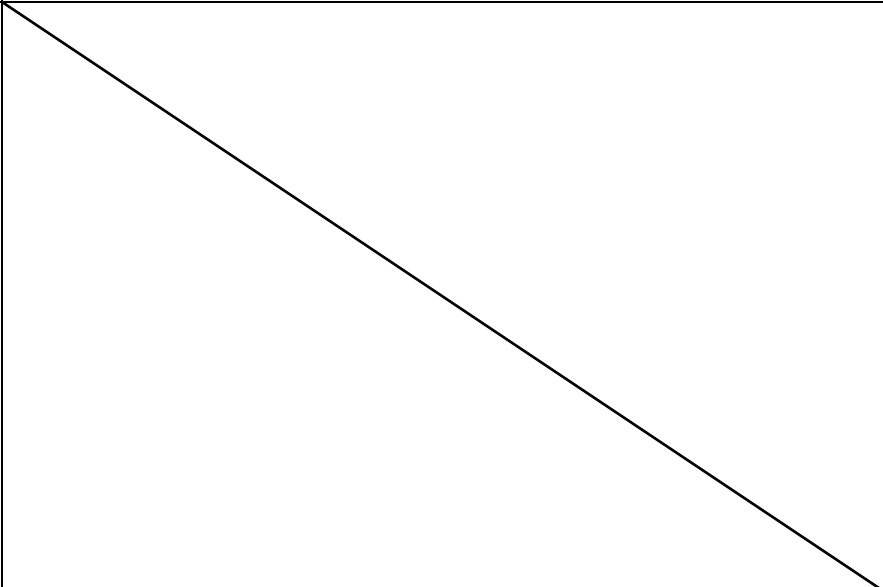
番号	委員名	議題番号	委員意見	事務局の考え方
4	藏田委員	議題1 【文化・スポーツ振興財団】	<p>具体的な数字がないとどこまで努力しているのか指定管理者さんは大変困ると思うので、今、指定管理料とその自主事業であるその他収入の割合が一つの目安になるかなと。令和2年20%、令和3年は27%ですか。これが今のコロナ禍の状況ですのでこの数字だと。令和7年度に向けて、これが5割いって欲しいのか、7割8割いって欲しいのか、2割3割でもいいのかそこではないと思いますが、それは、スポーツ施設の収益性と文化施設の収益性は多分セグメントが全く違うと思いますので、その部分は具体的に市の政策としても、どのように文化事業を持続可能なものにしていくのか、そのために公共財源をどこまでつぎ込めるのか、だしたら民間のお金もいただきます。</p> <p>また、スポーツについては、私もBリーグの試合に行かせていただいたりしますが、非常にそういう面では上手くやってらっしゃるので、まだまだ工夫の余地があるかなと。自治体さんや財団さんとまた地域のスポーツクラブさんとも連携しながら、いろいろな形で人を集め、お客さんを集めて、お金を落として、楽しんでいただく価値を作っていくという意味では、非常に可能性があると思いますので、ぜひその辺りを少しこう目線を上げて、取り組まれていくことで、一生懸命事業者さんも、指定管理者さんも努力されるでしょうし、地域の方々への呼びかけもこの数字を達成しなければいけないから頑張って協賛を集めるなどということもまたあるので、ぜひその点、令和元年・2年・3年・4年、7年、どの辺を目安にして他市の事例なども含めて、どのくらいの水準を指定管理料とバランスをとっていくのかという辺りは、ぜひご検討いただく必要があるかなと思います。</p>	
5	北川委員	議題1 【文化・スポーツ振興財団】	<p>文化会館をはじめ、こういった施設が柔軟に対応していただいているのは本当にありがたいと思っております。</p> <p>今の藏田委員のご質問に近いですが、今回、事業指標として3か年かけてコロナ前に戻すというのが、その3年もかけてやるってその目標設定として良いと判断された理由があれば教えてください。</p>	<p>(文化生涯学習課)</p> <p>3年かけて前に戻すというお話ですが、基本的に藏田委員からもお話がありましたように、元年度に戻すべきではないかという話があります。でも、ウィズコロナということを考えていくと、それを今までのように、1ヶ所に集客できるような事業展開ができるかどうか。新しい活動の仕方変わっていくのだと思っています。その中では、今インターネットなどを使って情報を出して、動画配信をするとか、そういうことで見ていただくという参加の仕方とも考えております。ただ、そのカウントの仕方というのが、そこにアクセスしたからOKとするのか。そこまでの精査が終わっていませんので、非常にそこが難しいところだと思っています。様々な形での参加の仕方考えていきたいというのが財団としての考えでございます。</p>
6	北川委員	議題1 【文化・スポーツ振興財団】	<p>その指標の設定が来館者数、その人の人数でいいのかどうかというのがそう思うところがあります。どんどん活動が変わっていて社会も変わってきているので、本来であればここは収益、収入がすべてではないですが、結局は補助金の依存率とその自主財源というのですか、その収入というもの、これをどうしていくかっていうのが、経営的には考えなければいけない部分だと思いますので、せっかく活動が変わってきたからこそ、指標はやはり頭数ではなくて、売り上げ的なところでそのためにはどういう工夫をしていくのかというのが事業計画になっていくのかなと思いました。</p>	

番号	委員名	議題番号	委員意見	事務局の考え方
7	稲継委員	議題1 【文化・スポーツ振興財団】	屋外施設でコロナ前ということであると、令和元年度が基準というの、普通に我々が感じるところであります。その辺はぜひお願いしたいのと、北川委員からもありましたように、トータル指定管理料の中でどのように市民に還元するかということから考えると、この入館者数、コロナだからまだ増えません。コロナだから今回どうのこうのということはいはならない。他の形での市民への還元というのをぜひ考えていただきたいと思います。	
8	村野委員	議題1 【文化・スポーツ振興財団】	来場者の増加にSNSを選定していますが、SNSを選ぶ理由はどこででしょうか。例えばTwitterを見ると人口約24万人中160人程度のフォロワーですがどのような属性の方たちでしょうか。SNSを使って来場者数を増加させるなら、コンテンツだけでなくフォロワーを増やす取り組みも行う必要があると思いますがどのようにお考えでしょうか。	(文化生涯学習課) SNSを選ぶ理由といたしましては、紙面広告とは異なる世代へアプローチできること、広告等と比べコストをかけずに全世界へ情報を発信できること、情報の即時性、より掘り下げた情報を提供できるという点と考えております。 また、Twitterのフォロワーの属性については、市内・湘南地域在住の若年層～熟年層で、当館や当館の催しに興味をお持ちお客様が大多数であると公表プロフィール、投稿内容から推測しております。 今後もより多くの方に当館を知っていただけるようにフォロワーを増やす取り組みは重要だと考えております。 そのために、ハッシュタグ「#」を付けて投稿することで検索にひっきりやすくなる工夫をする、投稿内容や更新頻度の見直しや、館内掲示物やチラシ等にSNSのQRコードを載せて周知する、当館の公式Youtubeチャンネルの動画をSNSでアップする、有用性が高いと思われる出演者等のアカウントの投稿をリツイートする等、フォロワーを増やす取り組みを進めて参ります。
9	菊池委員	議題1 【文化・スポーツ振興財団】 【シルバー人材センター】	公益財団法人茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団と公益社団法人茅ヶ崎市シルバー人材センター各事業の取組結果、課題、今後の方向性についてのコメントがありますが、その内容から各事業の課題が何なのか分りづらい。例で、P10の文化会館事業は、コロナ対策と対応、幅広い世代の市民に対する利用促進活動等に課題があるものと捉えています。課題認識に誤りがあると今後の方向性や取り組みにも影響が出ますので、課題を明確にしたうえで今後の取り組みを推進して頂ければと思います。(「資料2 外郭団体経営報告書(案)」及び「資料3 外郭団体経営計画(素案)」に共通しての意見)	(行政改革推進室) 公益財団法人茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団と公益社団法人茅ヶ崎市シルバー人材センターについては、ご指摘のとおり、課題の記載が不明確な部分がありますので、修正をいたします。
10	藏田委員	議題1 【社会福祉事業団】	今回の経営計画の中でも自立的な運営に向けて、実施事業比率を高めるということも目標が定められておりますし、また次期、将来に向けて達成目標として、自立的、継続的、安定的な運営ができるような法人となることを目指してということで指定管理者からの表明がございます。 市として、この事業を外郭団体さんが、安定的、自立的、継続的な経営ができるかという財務的な基準を明確にされる必要があるかなと思います。 その点、事業団さんからは、そういう方向性で取り組むということでご提案いただいておりますので、市としてそれをどのように、今で十分なのか、もっともっとやらなければならないのか、やらなければならないのか、どれぐらいを市の政策とのバランスの中で最適とするのかということについて、お考えを示す必要があるかと思っております。	(障がい福祉課) こちらの経営方針で、自主的、自立的に安定的にその経営をしていくところにおいて、何か別の指標のようなものが必要ではないかということをございました。 市といたしましては、今現在、収支ですが、2年度については5,000万円の赤字でございました。3年度につきましては7,400万円の赤字ということで、約2,400万円の増となっているところでございます。ですから経営につきましては、そういった収支をもとに判断できるのかなと思っております。またその自主的、自立的な運営のところでございますが、基本的には福祉事業でございますので、障害者の福祉の増進に寄与するということを目的に、運営を行っていただいておりますので、そこにつきましては、市と同じような方向性で進んでいると考えておりますので、今現在は指標としては、収支の指標ということで、今考えているところでございます。

番号	委員名	議題番号	委員意見	事務局の考え方
11	藏田委員	議題1 【社会福祉事業団】	<p>この活動の経営方針等の13ページ。他の団体さんと比べるとかなり内容的に薄いというのが正直感じているところでございまして、この点、当然他の団体さんと比較した時に、果たして特に目標等も含めてこの書きぶりも含めて非常にボリューム、内容、質量ともに課題があるのかなと感じましたので、ご検討いただきたいということをコメントとして申し上げます。</p> <p>質問が1点ございまして、人的な支援の部分で資料の11ページにございまして、人員の状況で他の団体さんと比べると市OBの役員、非常勤の職員の割合が高いのではないかと考えております。</p> <p>自立的な経営ということ考えたときに、果たして市OBの人材に依存し続けるということが、果たしてどうなのかというところについては議論もあろうかと思っておりますので、その点、質問としてはこの人員部分について、どのように自立性を確保されていくのかお考えがあったら教えてください。</p>	<p>(社会福祉事業団)</p> <p>まず、計画期間内における達成目標等につきまして、今後そのあたりをしっかりと内部でも整理をいたしまして、様々な計画等の反映をしていきたいと思っております。</p> <p>それからご質問いただきました役員等につきまして市のOBが多いということでございますが、これまでに、それぞれの約8ヶ所あります事業所も当初、市のOBの指定職ということで、役に就いていただきまして運営を行ってまいりました。これは少しずつではありますが、実際に事業団のプロパーが経験を積み、その職になることによりまして、少しずつであります。プロパーを登用してきております。今後、主に理事といった私ども役員につきましても、一定期間を考えながら、プロパーをしっかりとその職に就けるよう要請するような形で、しっかりと対応していきたいと思っております。</p>
12	藏田委員	議題1 【社会福祉事業団】	<p>具体的に令和7年度までに何人にする、収支としては、黒字は十分なのか十分でないのか、もしくは、もつとできるのではないかとということも含めて、プラスであればいいということであれば、そういうお考えで承ります。それは、あまり正しい設定のように思いませんので、もし、5,000万、7,000万ということであれば、次はどうしていくのかという数字がプラスだったらいいというのも少し疑問もあるので、具体的に幾らという数字を示されること、期間と数字を示されることをぜひご検討ください。</p>	
13	大坪委員	議題1 【社会福祉事業団】	<p>出資のお話がありましたけど、この7,400万が適切かどうかというのは判断がつかないところですが、一方で老朽化する施設とか、人件費の積立金をつけていう話がありました。これは当然7,400万から積み立てていくことになりまよね。</p> <p>この人を確保していくことがこの事業において一番大変で、苦勞してるところなのかと思うのですが、一方で今現在働いてる方に、これだけの収支があるとしてプラスがあるなら、やはり分配すべきじゃないかと、そういったことも踏まえて、やはりもっと具体的に計画をしていただかないと、これが適切かどうかという判断できないなと思っておりますので、そこをぜひ、かなり具体化していただきたいというところをお願いとして、意見として言わせていただきたいと思っております。</p>	<p>(社会福祉事業団)</p> <p>これまでも非正規職員を中心に福利厚生等の改善とか、処遇改善を行って、少しでも長くお仕事をいただけるような職場づくりを目指してきております。一方で、現在の経営計画があと1年で終わりますが、現在、その次の次期経営計画を策定すべく現計画の振り返りや今後の課題等について洗い出しを始めるところでございます。</p> <p>次期計画は5年期間ぐらいを目指しておりますので、その中に、先ほどお話が出ました積立金も各種目標金額でありますとか、そういったものをしっかりと位置付けた中で、計画的に対応していきたいと考えておりますので、その辺りも今後の内部協議等や、状況の調整の中でしっかりと取り組んでいきたいと思っております。</p>
14	稲継委員	議題1 【社会福祉事業団】	<p>人件費等の状況(職員)、5番はどちらの資料にもありますが、何か平均給与がすごく下がっています。令和2年度が649万、令和3年度では583万ですか。1割ぐらい下がっているのですが、これはどういう理由で無理に下げる必要は全くないと思うのですが、どういう理由ででしょうか教えてください。給与カットなどでしょうか。</p>	<p>(社会福祉事業団)</p> <p>職員が保育士さんとか女性が多い中で、職員の入れ替わりですとか、退職が多くございまして、そのあたり非常勤職員等で賄ったことで、給与そのものの額が異なったこと辺りが主な要因でございます。</p>

番号	委員名	議題番号	委員意見	事務局の考え方
15	藏田委員	議題1 【シルバー人材センター】	資料の18ページの財務諸表の数字を拝見させていただいて、令和2年、令和3年の支出は赤字ですね。これについてどのような原因の究明、もしくは課題として捉えられ、どのようなご指導をされていらっしゃるのかというのを確認させていただきたいと思います。	(高齢福祉介護課) 財務諸表につきましては、全体的にですが、令和3年度は令和2年度比で総収入、総支出ともに減少しております。令和2年度はかなりの赤字でしたが、令和3年度もやはり同様の赤字の状況になっております。 全体的に新型コロナウイルス感染症やリモートワーク、インボイス制度などの財務への影響が大きい問題に対して、今後、中期経営事業計画に基づいて適切に対応していきたいということで、お願いはしているところでございます。 経営評価指標の自立性、安全性、効率性の三本のところの項目がございますが、まず、流動比率では、304.7%ということで、令和2年度に比べて少し低くなってございますが、200%以上ということで、本来であれば安定的な経営ということが読み取れるところではございますが、先ほど申し上げたとおり、総収入、総支出ともに減少していることで、やはり今後の見通しに関しては適切に運営をしていく必要があるかなと考えてございます。
16	藏田委員	議題1 【シルバー人材センター】	シルバー人材センターさんに対しては、しっかりと経営していただいていることがよくわかりました。一番課題になっているところのポイントとしては、おそらく会員の確保かなと思います。もちろん、いろいろなものが必要ですが、粗入会率1.1%という数字が出ておりましたが、これについて努力されていて、この数字というようなご説明だったように捉えておりますが、抜本的に改善するためにはどういったらいいのかということについて、やはり説明会とPRだけで、それは今までもやってこられていることだと思わないのだからと思いますので、その点今までの、例えば説明会のやり方一つ、情報発信の仕方一つ、もちろん公平、透明というところは重要なことではありますが、一方で、それをより工夫改善していくことは重要だと思いますので、今までの入会に向けての取り組みに対する反省と、この令和7年に向けての100人近く増やしていくための具体的な打ち手ですね、もしお考えがありましたらご説明いただければと思います。	(シルバー人材センター) 会員数が現在912名ということで、当団体としてはまずコロナ禍の前の数字1,000名を超えていましたので、その数字に戻すことをまず先決に考えております。その中で、入会説明会の工夫もありますし、また現状で、912名の内、女性が200名ちょっとしかいません。 そういうところで、男性が700ちょっとということで、女性が増えていく、伸びしろが大きいということで、上部団体である全国シルバー人材センター事業協会でも、女性会員の獲得を目指したらどうかということをお願いしております。今年度ですが、10月に女性のためのセカンドライフセミナーというものを企画しまして、女性に関心を持っていただくことを計画しております。 それ以外にも、10月のシルバーの日前後ですが、この本庁舎の1階ロビーにブースを設けまして、各種パンフレットや当センターの小物同好会で作ったものを差し上げて、興味を持っていただくなど。それから8つのシルバー人材センターがどういった活動をしているかということを知らない方が結構いらっしゃいますので、そういった方に見ていただくために、仕事をしてる風景の写真などを展示することで興味を持っていただいて、入会につなげていきたいと考えているところでございます。
17	大坪委員	議題1 【シルバー人材センター】	私は民間企業で、人事担当としてで高齢者の活用をやっています。今65歳まで雇用確保というのは民間企業には義務づけられていますし、今後70歳になろうという状況になっていて、その企業でどうしても継続して働いていただくという施策になっているのですが、いろいろと社員の話を聞いていると、そうは言っても最後は地域で過ごすということがあるので、やはり、その地域に魅力的な仕事があるとそちらも考えるって話なのですが、そういった魅力的な仕事の提示ができていないのではないかなって思っています。そこをどうしたらいいかなってところをいろいろ考えていく方がいいのではないかなと。会員の入会を増やすということは結局、魅力的な仕事があるかどうかということだと思います。どうしても、軽作業とか、短時間の仕事とかそういうところに重きを置いているのですが、そうはいつても、いろいろと皆さんご経験されている中で、少しでも自分がこれまで積み上げてきたものを生かせるということになると、もう少し職域を広げないと、抜本的に母数が増えていくことは、なかなかないのかなと思うので、その施策を考えていただく必要があるかなと思いました。	(シルバー人材センター) 今、特にシルバー人材センターといえますと、請負委任というものが中心で、例えば植木の剪定であったり、除草だったり、清掃作業であったり、そういったものはイメージ的に多い、実際にも多かったですが、最近、特に企業から人手不足ということで、事業の手伝いっていいですか、そういったことで、例えば人手不足分野でこういう人はいないですかということで、実際シルバーの中にそういうノウハウを持った方もいらっしゃいますので、そういった方を紹介したりとか、そういったこともやっていますし、例えば児童クラブなどの保育補助的な仕事もありまして、特に今まで子育てをあまりやってこなかった男性の方、そういう方がやりますと、非常にお子さんとコミュニケーションが取れて、やりがいがありますよ、元気になりましたよといった言葉をいただくなど、いろいろな仕事が増えてきている状況であります。 仕事のあり方の中で請負委任だけではできないので、最近は派遣事業ということで、指揮、命令ができるような仕事についても、受注しているところでございます。そういったところが今、少し伸びてきてるところがございます。コロナの関係で企業がそういうことを控えていた、正社員も減らされている状況の中で、なかなかそこまでいうところがありましたが、最近は多少緩和されてきて、そういった受注が増えてきていますので、そういった点をまたPRできたらなと思っています。

番号	委員名	議題番号	委員意見	事務局の考え方
18	稲継委員	議題1 【シルバー人材センター】	粗加入率が1.15%とありましたが、全国的には何%ぐらいで、神奈川県内の平均は何%ぐらいなのでしょう。	(シルバー人材センター) 令和3年度の資料ですが、神奈川県平均が1.27%、全国平均が1.65%。これは入会率の方です。
19	稲継委員	議題1 【シルバー人材センター】	全国に比べて神奈川県がちょっと低いと。もう少しぜひ、職員拡大で頑張っていたきたいなと思います。	(シルバー人材センター) やはり地方に行きますと、農業とか、そういった地域産業でシルバーが地域に密着して、仕事をお受けしてとか、そういうことがございますので、そういう意味で、地方の方がシルバーの会員が多いという現状がございます。
20	藏田委員	議題1 【社会福祉協議会】	<p>成年後見など非常に強いニーズがあるということ等について、おそらく今持ちうる社会福祉協議会さんの体制として、かなり頑張ってお対応しているという目標を掲げられていらっしゃるというのは素晴らしいと思います。</p> <p>一方で、このようなことの取り組みについて、社会福祉協議会の中の人材だけで対応するというになると、多分それ以上に増大する地域側からのニーズを取りこぼしていくことになるのではないかなど。そういう点では例えば、各種の市民団体さんを含めて、ご協力をいただける団体と連携しながら、社会福祉協議会がその扇の要となって、地域に必要な福祉サービスを実現し、つないでいくというような役割を担っていくことこそが求められているのではないかなと思います。団体としての自立性という内向きの自立性だけでなく、地域全体の福祉を実現していくためにどういう役割を市や各種地域の団体さん、ボランティアの方々、民間企業、市民団体なども含めて、役割を担っていただくのかと、コーディネート機能に対して、どのように役割を果たしていくのかというのをぜひご検討いただいて、そこについての目標をしっかりと定めていただければ。</p> <p>全国でも様々な取り組みが成なされています。ぜひ、そういったものを参考にされながら、中だけでどうするかということ以上にもっと外に出て、外と手をつないで、地域の福祉をどう実現していくのかという役割部分について、方針なり検討いただければと思います。</p>	(社会福祉協議会) 社会福祉協議会の力だけでは、正職員数も10数名という中では、市民から今後上がってくるであろうニーズに対しては受けとめきれないところはあろうかと思えます。 権利擁護の部分につきましては、実は定期的に裁判所、これはご存知のとおり横浜の家庭裁判所になります。裁判所が主催というか集める会議であるとか、あるいは県の社会福祉協議会が、こういった事業を実施しているところを集めての勉強会であるとか、あるいは茅ヶ崎市内においても市民の方とか、民生員の方とか、そういった方々を集めての勉強会・研究会というものを定期的に行っております。その中で、必要な情報交換をしております。中には弁護士の先生、あるいはお医者さん、他に司法書士や行政書士の方、それぞれ市域を代表する方が加わっていただいております。そういったところからアドバイスとか、現状、場合によっては手一杯で、受け切れるところで受けきれないところがあるような情報も含めて、いろいろな情報交換を定期的にさせていただいておりますので、こちらからも情報を発信し、よりよい形づくりを今後、中核機関という部分もございまして、進めていきたいなと思っております。 特に家庭裁判所が対象として、そこでやりとりするということ、一人一人年間の報告について、大体1人当たり5ミリから1センチぐらいの非常に分厚い書類を裁判所の書記官、裁判官に送らなければいけないというのがありまして、その辺今後、職員のスキルアップも含めてしっかりやっていかないといけないかなと考えているところでございます。
21	藏田委員	議題1 【社会福祉協議会】	<p>自立的運営を期待するというので、方向性はお示しいただいてと思いますが、具体的な数字と目標達成の年度が入らないとどこまで何をすべきかということとは明らかになりません。十分な取り組みを構成されているのであれば、今のものでも十分でしょうし、まだまだ改善の余地があるとするならば、より高い目標を掲げていただき、その達成に向けて、市と社会福祉協議会さんが連携していくということが重要だと思います。</p> <p>個別的な論点で、令和7年に向けてどういうあるべき姿を市と社会福祉協議会さんと役割分担して、どれぐらいの財務的な目標を達成し得るのかという目標設定について、具体的な検討状況についてご説明をお願いしたいと思います。</p>	(福祉政策課) 自立に向けた具体的な目標の数値、金額というものの設定は、今のところはしておりませんが、毎月3回ほど社会福祉協議会さんと重層的な支援会議とか、先ほど話が出た中核機関の設置に向けての話とか全体の話それぞれ1回ずつ月3回行っております。 また昨年度から、事業評価ということで、各種委託事業などについての評価をそれぞれ実施しております。4年度には一部委託料を切り換えるなどということもやっております。4年度に入っても、各事業の見直し評価をしておりますので、自主的な活動ができないかどうかというものを踏まえて、今後とも連携協議しながら進めていきたいと考えております。

番号	委員名	議題番号	委員意見	事務局の考え方
22	藏田委員	議題1 【社会福祉協議会】	<p>市としては、団体との関係性の中で、全体としてあるべき姿はどのような形なのかというのを具体的な数字として示す責任があると思います。</p> <p>それは、個別の取り組みが良くなっていけばそれで良いということではないと思いますので、その点についてしっかりとご検討いただければと思います。社会福祉協議会に対しては、そういう取り組みをされていらっしゃるの素晴らしいと思います。そのもう一歩先をぜひ取り組んでいただきたい。</p> <p>例えば今、職員の方が、5mmから10mmの書類作るのはとても大変だと。そうであれば、そういうことが得意でいらっしゃる担い手の方のご協力を考えられないか。もしくは例えば、関わっていただいているネットワークの中で、そういうところを少し低廉な価格でご協力いただけるようなやり方ができないかとか。自分たちの中のリソースだけで何とかしようというなかなか厳しいので、いまはそういう情報を集めて、課題を見つけ出してやるべきことが見えたら、それをやってくださいとお願いするのもまた地域福祉にとって非常に重要な役割だと思います。もちろんビジネスとして手数料を払うだけではなく、高齢者の方々や関わる当事者の周辺にいらっしゃる方も含めて、多くの方々に関わっていただくことが重要だと思うので、いろいろな方々にご相談をされて、関わっていただくことで社協のパイも広がっていくし、まだ新しい地域福祉の種を見つけていただいたり、それを一緒に育てることこそが社会協議会にとっても重要な役割だと思うので、新しいモデル作られたらいいと思います。</p>	<p>(福祉政策課)</p> <p>個別的なところは確かに協力しながら連携しながら話を進めているというのがやっているのですが、全体的というところになりますと確かに自主的というところは、進めて欲しいのですが、営利を目的としているところではありませんので、先ほどの地域の話もそうですが、今後の重層的支援体制整備とか中核機関とかそういうものを通じて、他市の好事例とかそういうもので再度確認させていただきながらやれるものから取り組んで、全体として、社会福祉協議会が、地域の旗振り役、中心となるような形で、市も協力してやっていければと考えています。</p>
23	藏田委員	議題1 【社会福祉協議会】	<p>例えば、重層的支援をやるとなると、その財源をどうするか。仮に今の経営状況が十分でないとすれば、外部財源を取ってくるしかない。</p> <p>何とか財源を確保していくために、一生懸命に申請書を書く手間暇時間を、優先順位を高めて取り組んでいくというのが、初めて目標を設定した上で出てくるのです。そこがない中で個別の事業改善、事業改善でやっていくと、もう果てしないゴールのないマラソンみたいなもの。</p> <p>茅ヶ崎市の社会福祉協議会さんの運営の財源のレベル感として、これがある程度想定される一つの形だというバランスなり数字を出さないと、社会福祉協議会としてもたないですよ。</p> <p>さらに改善を求めるとするならば、「じゃあ、もうすでにバンバンであればどこかを、削ってでもやりましょう」という選択をしていくのが、法人の経営そのものあり、その取り組みをどのレベルでやっていくのかというのは、市側が示さないと、社会福祉協議会さんにとっても適切な運営や人材の活用はできないので、それをちゃんと数字として示すべきだと思います。</p> <p>社会福祉協議会さんとの役割分担、現状ある中で、ここまで少なくとも求めていってほしいというところを、ぜひご検討いただいて数字を示していただく、それをベースに、社会福祉協議会さんと協議をされるというのがよろしいかなと思います。</p> <p>県内や他市を含めて、様々な比較の目安はあると思いますので、同種類の都市規模であるとか、地域性などを考慮して目標設定されるのがよろしいかなと思います。</p>	

番号	委員名	議題番号	委員意見	事務局の考え方
24	村野委員	議題1 【全体に対して】	民間団体の参入が増えるなか、外郭団体と運営するメリット、デメリットはどのようにお考えでしょうか。民間団体と比較したうえで、民間団体ではできないことは外郭団体がやる、その逆もしかりと役割分担がわかる状態が望ましいと思いますので、各団体整理した情報が知りたいです。	<p>(行政改革推進室)</p> <p>ご意見のとおり、民間団体の参入に伴い、外郭団体に委ねるメリットは減少している状況にあります。</p> <p>本市が捉える外郭団体の役割としては、市の行政活動における政策の実施部門から分離された一定の事務・事業等を担い、行政を補完し、効率的な行政運営を促進すること、市が直接実施する必要はないが、民間に委ねた場合、継続的に実施されないおそれがあるものを効率的かつ効果的に実施することの2つとしており、これらの視点で民間団体との違いを発揮していただきたいと思います。</p> <p>デメリットとしては、市との強い連携が求められる一方で、市への依存度が高くなることで、自主自立的な意思決定や組織運営を阻害する恐れがあります。</p> <p>そのため、市としては、団体の自立性を損ねることのないようしつつ、外郭団体が持つ能力を最大限に発揮していただくための関わりが必要と考えています。</p> <p>また、民間団体との役割分担については、各外郭団体は、上記の基本的役割のほか、各外郭団体の設立趣旨に沿った個別的役割を有していますので、その部分において整理できると考えています。</p> <p>【公益財団法人 茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団】</p> <p>本市が培ってきた文化の振興と継承、また新たな文化の創出や振興を通じ、文化的で豊かなまちづくりに貢献する。さらに、多くの市民がスポーツに親しみ、健康で豊かな生活を送ることができるよう、スポーツの振興に寄与する。</p> <p>【社会福祉法人 茅ヶ崎市社会福祉事業団】</p> <p>本市の障がい児(者)福祉施策の実施主体として、民間では対応が難しい福祉サービスや先駆的な取組を積極的・継続的に提供することで、地域の福祉サービスの牽引役として、質の向上と安定に貢献する。</p> <p>【公益社団法人 茅ヶ崎市シルバー人材センター】</p> <p>「高齢者等の雇用の安定等に関する法律」に基づき本市に設置されたシルバー人材センターとして、高齢者への就業に関する情報提供や生活様式に合わせた業務を提供するとともに、さまざまな社会参加を推進し、健康で生きがいのある生活の実現と、地域社会の福祉の向上や活性化に貢献する。</p> <p>【社会福祉法人 茅ヶ崎市社会福祉協議会】</p> <p>「社会福祉法」に基づき本市に設置された社会福祉協議会として、地域福祉プランを推進し、重層的・複合的な課題や制度の狭間の問題を捉えた活動を行い、地域福祉の向上に貢献する。</p>